

都市の研究施設「森ビルアーバンラボ」

森ビルは、都市全体を俯瞰し、都市と東京の未来を多角的に考えるための研究施設「森ビルアーバンラボ」(東京都港区六本木)を、2019年10月に創設しました。

総施設面積は約1,670㎡。巨大な東京の都市模型(縦15m×横24m、面積約200㎡)を配した「シアタールーム」は約740㎡の圧倒的な大空間を誇り、壁面には都市模型を囲むように360度の巨大なスクリーンを設置。部屋中に散りばめられた約30台の高精細プロジェクターと最新鋭の映像技術による様々なプロジェクションマッピングによって、多種多様な視点から国際都市・東京を捉え、都市の未来を考える、議論するためのツールを提供します。

■シアタールームの主な設備・機能

① 1/1000 スケールの巨大な都市模型

森ビル独自の手法で作り上げた1/1000スケールの巨大かつ詳細な都市模型。建物の外観はもちろん、地形の起伏や樹木、看板、道路標識などに至るまで、都市のリアルな姿が再現され、都市の構成、街や建物のスケール、位置関係などを一目で把握することが可能です。「東京」の都市模型は、縦15m×横24mの大きさを誇り、都心13区、面積にして約230km²分の範囲を再現しています。また、「東京」の隣には、同じスケールの「ニューヨーク(マンハッタン)」や「上海(浦東新区)」の模型も展示されており、各都市を比較することで、それぞれの都市の特色や課題を深く理解することが可能です。また、都市模型を360°取り囲む、高さ6メートルの巨大なパノラマスクリーンには、東京都心部の美しい夜景や、都市に関する様々な映像コンテンツが投影されます。



「東京」の都市模型(遠景)



「東京」の都市模型(近景)



「ニューヨーク」の都市模型(マンハッタン)

② 360度の巨大なパノラマスクリーン (6m×26m×4面、スクリーン面積約620㎡)



③TOKYO CITY SYMPHONY(プロジェクションマッピング・プログラム)

「東京」の巨大な都市模型に、高精細な 3D プロジェクションマッピングを行うことで、東京という巨大国際都市の脈動とエネルギーを表現した、約 4 分のウェルカムプログラム。映像と音楽が観るものを包み込むような圧倒的なスケール感で、「森ビルアーバンラボ」を訪れた人々を惹き込みます。

※ストーリー(約 4 分)

「ようこそ。」

物語は、様々な言語による WELCOME から始まる。

ドクンドクン・・・都市が鼓動をはじめ。

昼と夜とが繰り返される。

立ち上がるビル群。伸びていく道路。

一斉に都市にエネルギーが行き渡る。

東京という都市全体が、

まるでひとつの生き物のように息づいている。

暗闇から大樹が生えてくる。

緑のカーペットが都市を覆い、生命の水が行き渡る。

花が咲き蝶が舞う。美しい自然。

すると一閃。モノクロの雷雨が街を覆う。

後に続くのは、バチバチするようなヴィヴィットな色合いの
東京ポップカルチャーの嵐。

物語はフィナーレへと向かう。

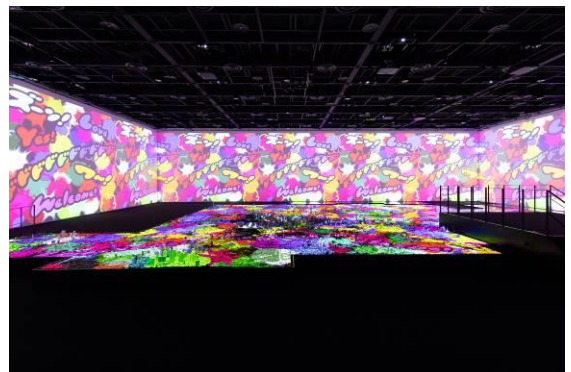
光の渦。行き交う花火。圧倒的な祝祭ムード。

互いのビルは呼応しあいながら、

ワクワクするような東京の未来を夢見ている。

そして、この場所に来てくれた

あなたのことを、心から祝福している。

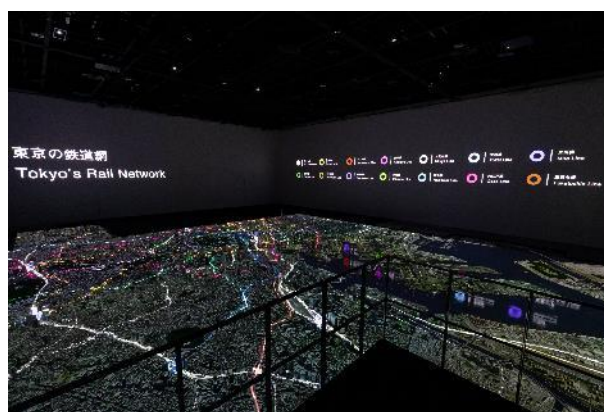


④TOKYO URBAN STUDIES(プロジェクションマッピング・プログラム)

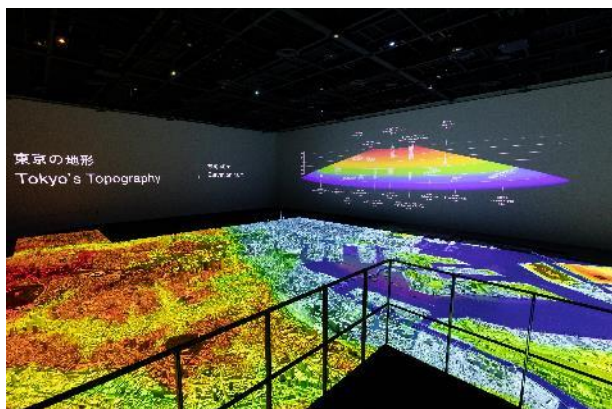
「都市模型」を巨大なキャンバスとして活用し、プロジェクションマッピングによって、様々な切り口から「東京」を考えるためのプログラム。「東京の交通網」「東京の地形」「東京湾の海岸線の変化」「オリンピック施設2020」「東京の緑」など、様々な視点から改めて「東京」を捉えることで、「東京」の特色や課題を直感的に理解することが可能です。



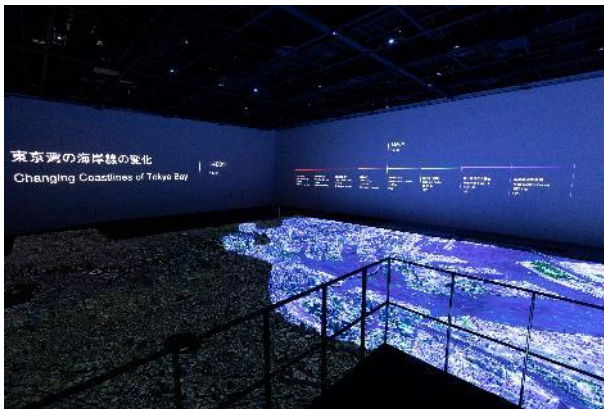
多種多様なプロジェクションマッピングコンテンツを用意



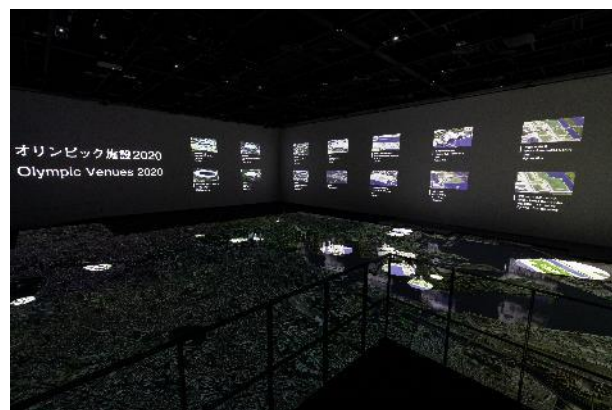
「東京の鉄道網」



「東京の地形」



「東京湾の海岸線の変化」



「オリンピック施設2020」



「東京の緑」

■デザイナー・クリエイタープロフィール

「TOKYO CITY SYMPHONY」「TOKYO URBAN STUDIES」 クリエイティブディレクション

大八木翼 (Tsubasa Oyagi)

株式会社 SIX / エグゼクティブ・クリエイティブディレクター、パートナー

2013年 SIX 設立。六本木ヒルズ10周年を担当し「TOKYO CITY SYMPHONY」を制作。カンヌや D&AD など受賞多数。“広告は、ひととひとをつなぎ、世界を良い方向へと向かわせる最大のメディア・アートである”という考えのもと活動を重ねる。



「TOKYO URBAN STUDIES」 アートディレクション

矢後直規 (Naonori Yago)

株式会社 SIX / アートディレクター

Laforet HARAJUKU, Roppongi Hills Fashion などのビジュアルデザインや、ZIPAIR のクリエイティブディレクションを手がける。2020年2月にラフォーレミュージアムにて初大規模個展「娑婆羅」を開催。青幻舎から初作品集「娑婆羅」が出版される。

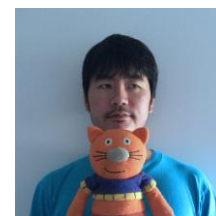


「TOKYO CITY SYMPHONY」「TOKYO URBAN STUDIES」 User Experience デザイン

馬場鑑平 (Kampei Baba)

株式会社バスキュール / クリエイティブディレクター

1976年大分県生まれ。2002年バスキュールにプログラマーとして入社。2010年クリエイティブディレクターに転身。広告、アトラクションイベント、教育、アートなど、様々な領域のインタラクティブコンテンツの企画制作に携わる。

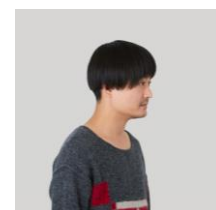


「TOKYO CITY SYMPHONY」「TOKYO URBAN STUDIES」 映像制作

加島貴彦 (Takahiko Kajima)

株式会社ピクス / プロデューサー

映画録音部での録音助手を経て、2005年株式会社ピクス入社。プロダクションマネージャー職を経て現職。CM、WEB 広告、MV、ライブ演出映像、ショートフィルム、空間映像やインタラクティブコンテンツなど、プロデュース領域は多岐にわたる。



TAKCOM

コネクション株式会社 / 映像作家

TVCM や MV、インスタレーション、ライブパフォーマンスなど多種多様なアウトプットに加え、音楽を軸にジャンルも規模も様々なアーティストとコラボレーションを繰り返しながら活動してきた映像作家。初の長編映画「花と雨」が2020年1月より劇場公開。



「森ビルアーバンラボ」 インテリアデザイン

重松象平 (Shohei Shigematsu)

OMA / パートナーおよびニューヨーク事務所代表

1973年、福岡県生まれ。主な作品は中国中央電視台 (CCTV) 新社屋、コーネル大学建築芸術学部新校舎、コーチ表参道フラッグシップストア、ケベック国立新美術館新館、シリコンバレーのフェイスブック社新キャンパスマスタープラン、ニューヨークのサザビーズ本社ビルなど。現在ニューヨークのニューミュージアム新館や(仮称)虎ノ門ヒルズ ステーションタワーなどのプロジェクトが進行中。コロンビア大やハーバード大の大学院で教鞭もとる。

